

政策18 産業の活性化

構成する施策

57 商工業の活性化
58 観光環境の整備

59 農林業の保全・育成
60 新産業の振興

目標

長期的な視点で商業、観光及び新産業の活性化を図るとともに、安定的・長期的な農業支援を行っていきます。

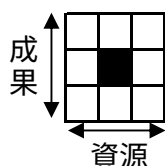
基本方針

- ◎本市の地域性と特性を生かした産業振興や、桜井駅前等既存商業地域の活性化、コムアートヒルと箕面新都心の連続的な商業空間の創出をめざしていきます。
- ◎事業者の意欲のもと、本市の都市イメージを損なわず市民生活に利便性を確保するような産業の振興を支援していきます。
- ◎訪れた人が本市の魅力を発見できるような工夫と、近隣自治体と連携した広域観光ルートの開発に向けた取り組みを進めながら、環境に配慮した観光業の再生をめざしていきます。
- ◎公益的機能を有する農地（農業）や山林（林業）の重要性を市民とともに考え、保全・育成に努めていきます。

考え方

政策の方向性

箕面市市民満足度アンケートにおいては、重要度、満足度、市民ニーズ度ともに低い位置づけとなっている。本市では、箕面わいわい株式会社（中心市街地のまちづくり会社）、箕面商工会議所、行政の連携によって商工業の活性化や観光業の振興等に取り組んでおり、一定の成果を上げている。今後も、商業関係者との連携を図りながら産業の活性化を図るため、資源配分は「維持抑制」しつつ、これまでに達成している成果を「維持向上」していくことが望まれる。



成果	維持向上
資源	維持抑制

社会状況の変化

・大規模小売店舗の進出や、消費者の行動範囲が市内外問わず拡大していることから、小規模小売店がますます脆弱化していく。
・平成18年6月に中心市街地活性化法が改正され、公益施設、病院、学校、地元住民等の多様な経済主体によるまちづくりが求められている。

これまでの取り組み

・箕面市中心市街地活性化基本計画を策定し、それに記載された施策の実施に取り組んだ。
・箕面わいわい株式会社を設立し、同会社の活動支援を通じて中心市街地の集客力向上及び活性化に貢献した。
・有害鳥獣被害対策を実施し、農林業の保全に寄与した。
・箕面商工会議所が行う、商業活性化アクションプランに基づく具体事業を支援してきた。

課題

- ・「滝」「もみじ」以外の魅力の発掘や、市街地観光（都市観光）の充実が課題である。
- ・紅葉シーズンにおけるドライブウェイの交通渋滞対策が課題である。

成果指標

成果指標名		基準値 → 目標値
指標	市内商業の年間販売額数	4,832 億円 → 4,900 億円
根拠	魅力ある商業地域の活性化をめざし、自主的な商工業活動を活発に行うことができるよう支援を進め、市内商業の年間販売額数を指標とする。昨今の景気の上向きが、市内中小企業にも波及してきていることから、市内商業の年間販売額の目標値を4,900億円とする。	
指標	府営箕面公園の観光客数	127.9 万人 → 130 万人
根拠	府営箕面公園は箕面大滝や紅葉など本市を象徴する観光名所であるため、府営箕面公園を重要な観光資源として活用しながら、環境に配慮した観光振興をめざすことから、府営箕面公園の観光客数を指標とする。環境に配慮しつつ、観光PRの強化、中心市街地活性化の取り組みを一層進め、130万人を目標とする。	
指標	水田耕作率	87.3 % → 85.0 %
根拠	援農者の育成・供給や有害鳥獣被害の対策に力を入れ、農林業の保全・育成をめざすため、水田耕作率を指標とする。農業従事者の高齢化の進展に伴い、農地の遊休化を防止することは難しいため、数値の悪化を微減にとどめることをめざし、85.0%を目標とする。	
指標	市内の開業申告件数	266 件 → 270 件
根拠	新産業の振興をめざして、起業支援を行うため、市内における新たな開業件数を指標とする。ベンチャー企業やSOHO等の起業動向は横ばいの状況にあるものの、景気が上向いてきていることから、開業申告件数は微増の270件を目標とする。	